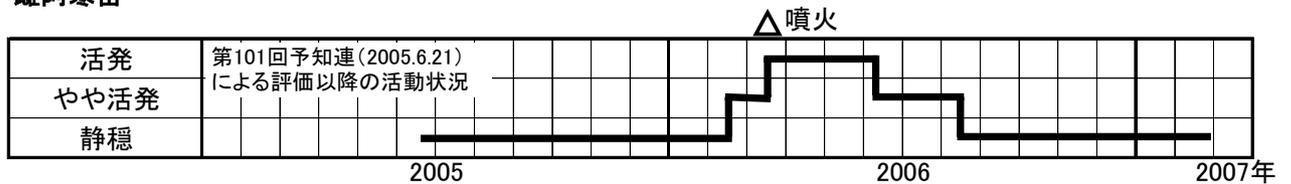


雌阿寒岳

○ 火山活動評価：静穏な状況

小規模な火山性地震が一時的にやや増加しましたが、その他の観測データには特段の変化はなく、火山活動は静穏な状況です。

雌阿寒岳



○ 概況

・ 噴煙活動（図 2）

赤沼 06 火口群や北西斜面 06 噴気孔列の噴煙活動は静穏な状況で推移しており、噴煙の高さは火口縁上おおむね 50～100m で推移しました。また、ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙の高さは、火口縁上 50m 以下で推移し、特に変化はありませんでした。

・ 地震活動（図 2、図 3、表 1）

9～21 日にかけて小規模な地震がやや増加しましたが、そのほかは 1 日あたり 10 回以下で推移し、おおむね低調に経過しました。火山性地震は、先月以降一時的にやや増加する活動を繰り返しながら推移しています。

火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動（図 4、図 5）

GPS 連続観測では火山活動によると考えられる変動は観測されませんでした。

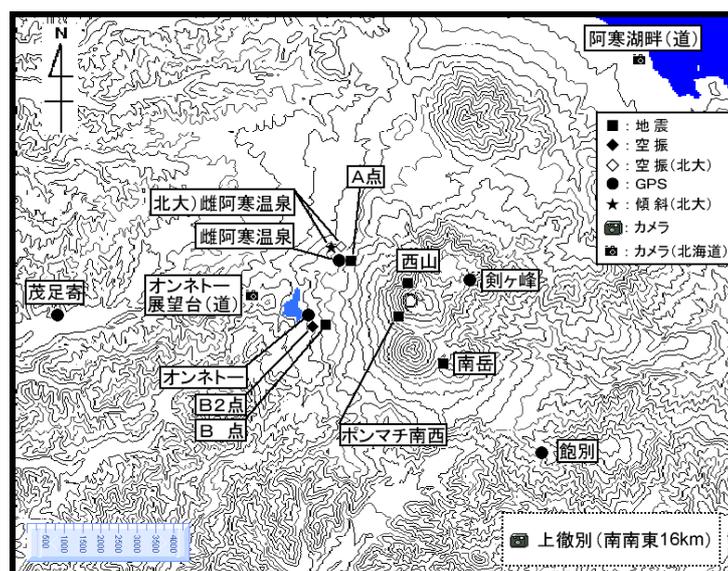


図 1 雌阿寒岳火山観測点配置図

※資料は気象庁のほか、北海道、北海道立地質研究所のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平 17 総使、第 503 号）。

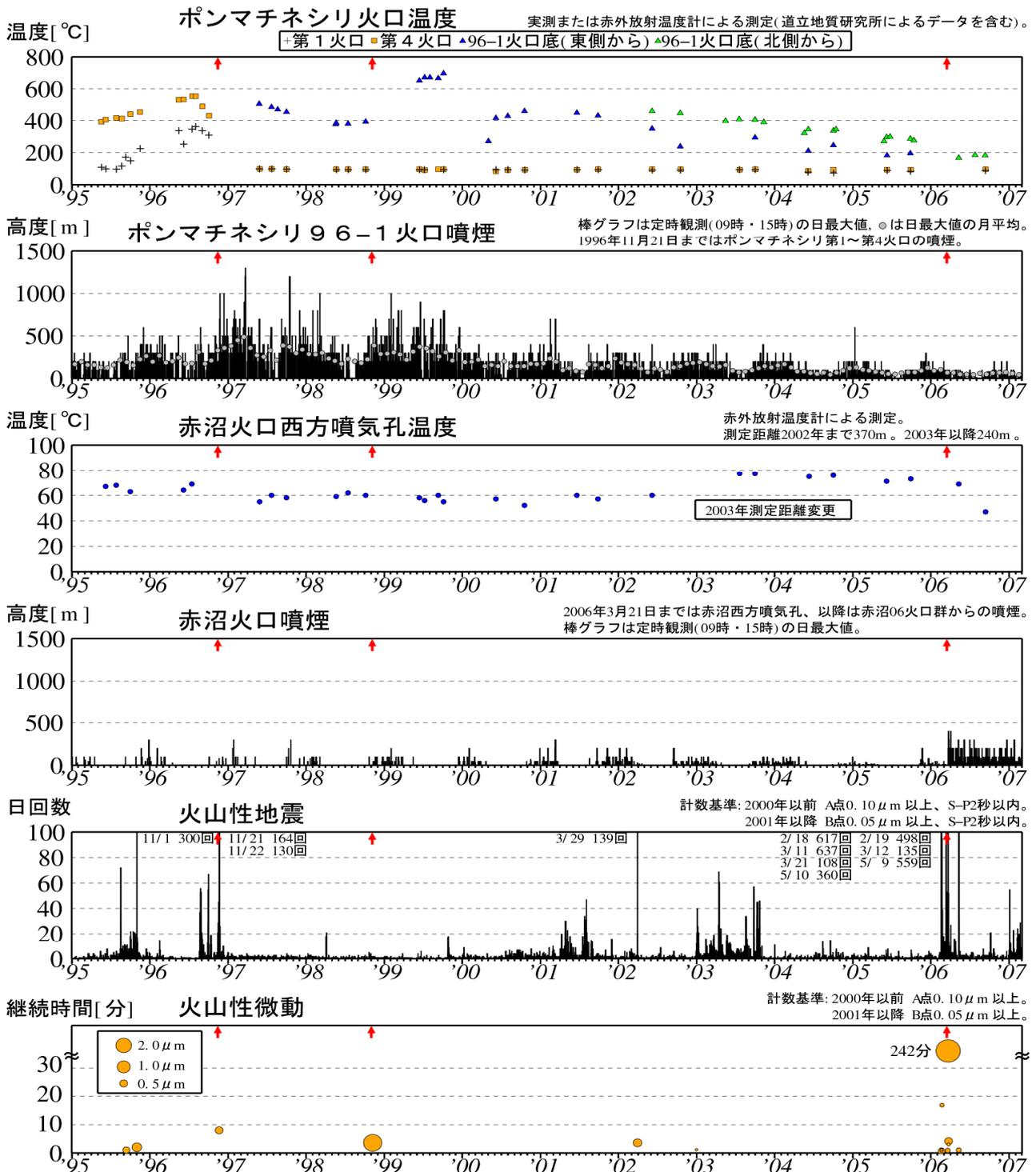


図 2※ 雌阿寒岳 最近の火山活動経過図 (1995 年 1 月～2007 年 2 月) ↑印は噴火

(1996 年、1998 年：ポンマチネシリ 96-1 火口からの噴火、2006 年：赤沼火口からの噴火)

- ・ポンマチネシリ 96-1 火口の熱活動、噴煙活動は 2000 年以降徐々に低下し、その傾向は 2003 年以降明瞭になっています。2006 年 3 月の小噴火後もこの状況に変化は見られていません。
- ・赤沼 06 火口群の噴煙活動は、2006 年 3 月の小噴火後は活発な状況でしたが、その後活動は次第に低下し、最近では静穏な状況で推移しています。
- ・地震活動は 2006 年 3 月の小噴火前は活発な状況で推移していました。小噴火後は、5 月に一時的に多発したほかは少ない状態で経過していましたが、2007 年 1 月以降やや増加しています。

表 1 雌阿寒岳 地震・微動の月回数 (B点: 図3のMEAB)

2006~2007年	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
地震回数	1290	128	986	34	34	23	42	79	16	20	195	228
微動回数	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0

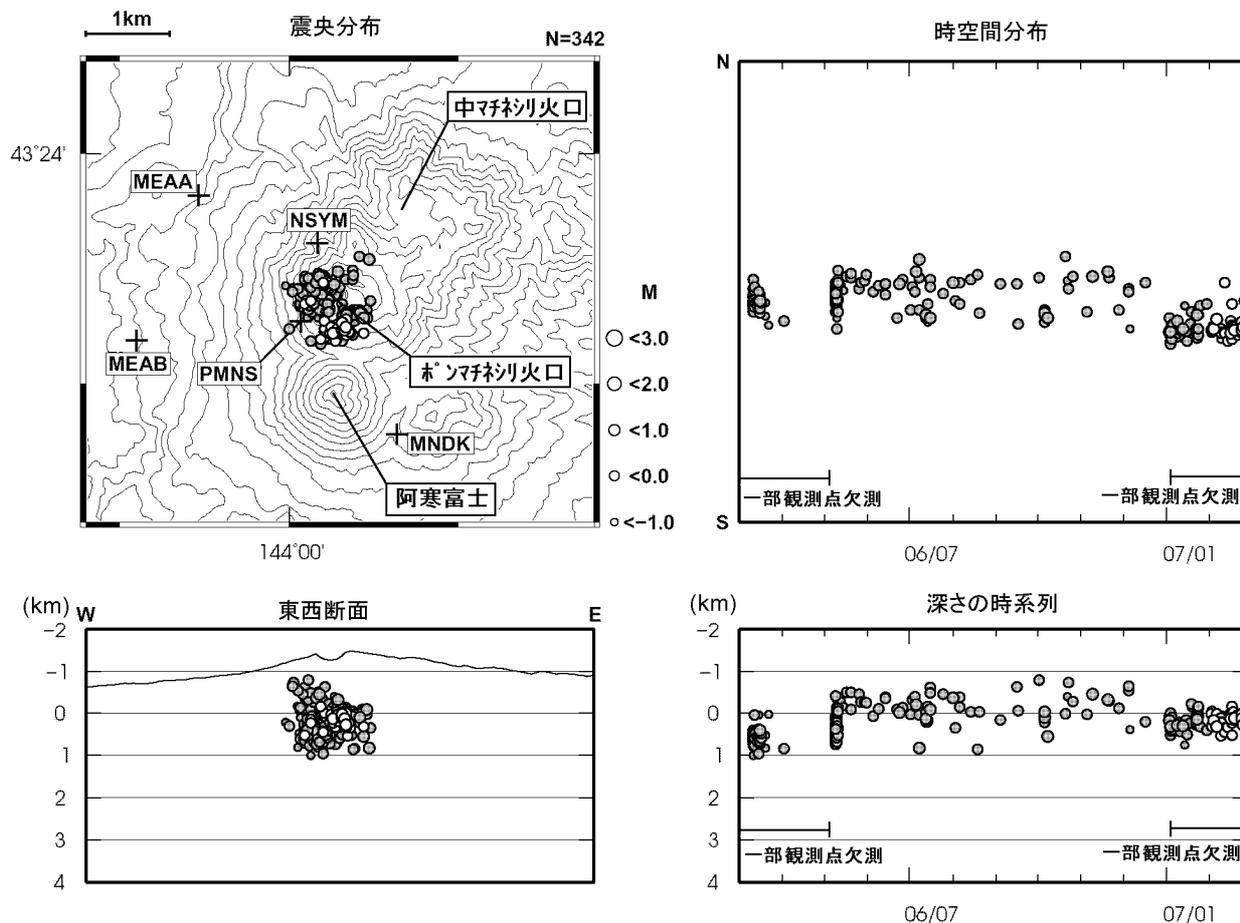


図 3 雌阿寒岳 震源分布図(2006年3月1日~2007年2月28日、+は地震観測点)

2007年1月3日以降、一部観測点欠測のため震源決定能力が低下しています。

○印は今期間(2007年2月)の震源

●印は前期間までの11ヶ月間(2006年3月~2007年1月)の震源

- ・前期間までの震源の多くは、ホンマチネシリ火口直下の浅い所(山頂から深さ1~3km付近)に分布しています。今期間に求まった震源もおおむねこの領域内に分布しています。

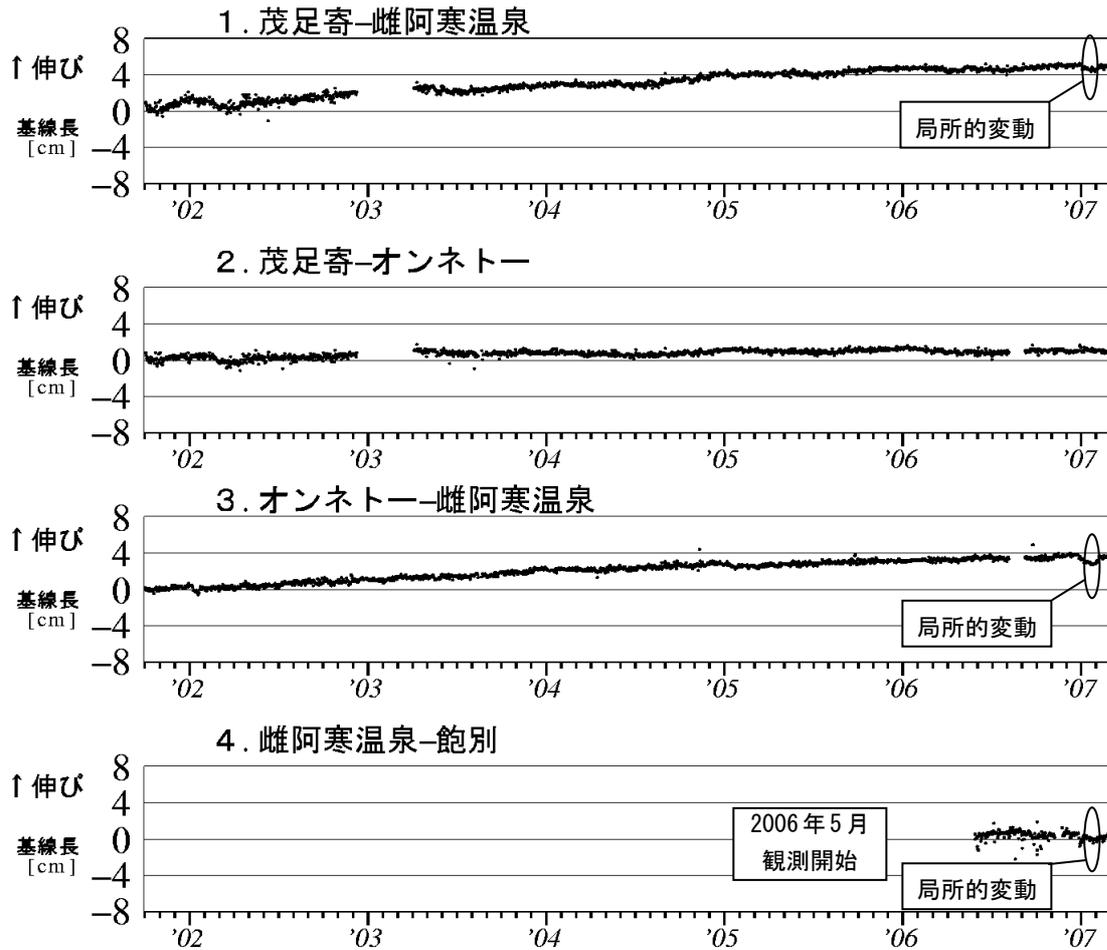


図4 雌阿寒岳 GPS 連続観測による基線長変化 (2001 年 10 月～2007 年 2 月)
 グラフの空白部分は欠測
 剣ヶ峰観測点は 2006 年 5 月に観測を開始しましたが、2006 年 11 月に移設したため、
 グラフは掲載していません。
 図4の1～4は、図5のGPS基線①～④に対応しています。
 ・2007年1月の1および3番の基線変化は雌阿寒温泉観測点の局所の変動と考えられます。

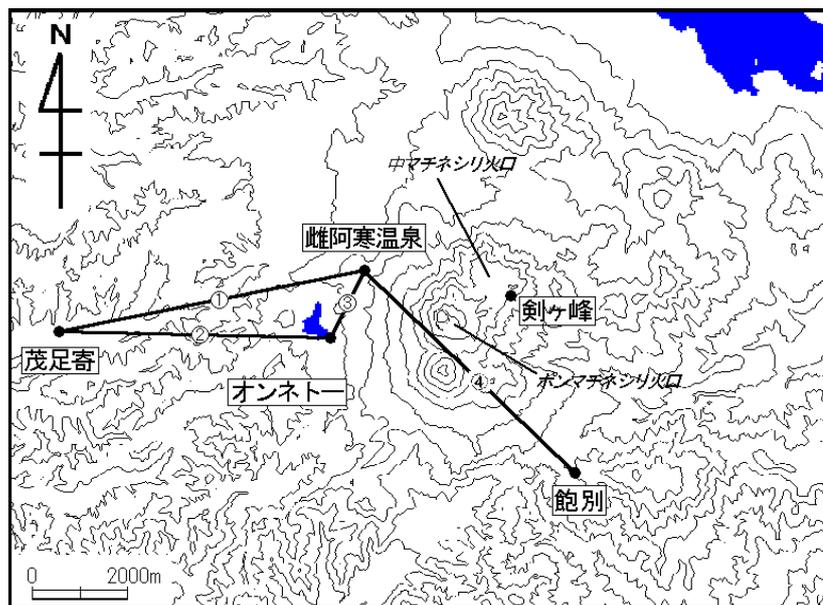


図5 雌阿寒岳 GPS 連続観測点配置図